

甲南だより

天下に冠たる



教頭 黒木 哲 二

母校に赴任してから早くも三年が経とうとしている。

着任当初、自分が在籍した頃とは随分異なる学校の雰囲気

に多少の戸惑いを覚えた。自分の頃と比べて、生徒達が

「明るく伸び伸びとしている」と感じた。進学面で県下トップ

クラスの実績を上げていることは昔と変わらない。それ

に加えて、部活動の面でも全国クラスの選手が多数活躍し

ている。これは驚きだった。甲鶴戦をはじめ、体育祭や

文化祭、薩摩半島縦走など、様々な行事の中で見られる、

他校には無いような生徒達の生き生きとした姿に学校全体

としての「活気」や「勢い」をひしひしと感じた。

一方で、生徒個々を見ると、現代っ子特有の「幼さ」や「ひ

弱さ」を感じる場面も多く、授業中、教科担からの質問にか

堂々と活躍できる人材を育成することを更に強く意識する

二年間となった。

実際に取り組み生徒は大変、指導助言にあたる先生方

も大変。しかし、この二年間で生徒達は確実に成長してき

ているということを感じている。

普段の授業時は勿論、甲南タイムでのスピーチの際の話

し方、WIKIで取り組んだ様々な場での発表の様子等

を見てみると、生徒一人ひとりの変化と学校全体としての変

化が実感されてくる。他校には無い、普通の授業

内容とはまた違った課題研究へ取り組み大変さを乗り越え

ていく中で、大きな「自信」が生徒諸君の中に芽生えてい

るのではないかと思う。今、我が校は、県内外の教

育関係者からの注目を集めている。教科の学習+課題解決

2年生15人がグローバル研究「学びにUK」事業でイギ

リスに赴きました。3月2日から12日までロンドン郊外

のエンフィールドを中心に、オックスフォード、ケンブリ

ッジ、ロンドン中心部を訪れました。

このイギリス研修には大きく二つの目的があります。一

つは、今まで進めてきた課題研究を大学で発表し、大学院

生や講師の方々から指導助言をいただくことです。もう一

つは、高校・大学でのディスカッションやホームステイを

通してグローバルに活躍できる人間としての経験と知識を

身につけることです。他にも高校での体験授業や、ミュー

ジカル鑑賞、ロンドン市内視察を行います。

大学研修は、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、ユニバーシティカレッジ

「学びにUK」報告

れ、それを得るための努力もしてきたのだから。そして次

に今まで支えてくれた周りに感謝していただき。このプロ

グラムで得たものを周りに伝えて活かしていかなければな

らない。それはみなさんの特権であり、責任でもあるのだ

から」と言葉をいただきました。

また、他にも大学院生のプレゼン発表を聞いたり、ディ

スカッションをしたりする機会がありました。テーマは研

究内容に関するだけではなく、世界の多様性や情報に対

する信用性、国家論等幅広く英語で議論しました。

ケンブリッジでも大学院生のプレゼンを聞いたりディス

カッションをしたりする機会を作りました。ここでは特に

進路について話題にしました。皆さんの高校時代からケンブリッジ大学で学ぶまでの

の言葉には説得力があり、素直に生徒の心にとどくもので

した。ジャーナリストの方からは、報道関係の視点から現

在のヨーロッパの状況を説明していただきました。急激に

変化する世の中だからこそ、優しい心が大切であることを

教えていただきました。

学校訪問は、昨年と同じくミルヒル高校を訪問しまし

た。チャペルでの会に参加したり授業に参加したりしました。

生徒たちは歳の近いミルヒルの生徒との交流をとっても楽

んでいました。ミルヒル高校の優しさや授業に対する積極

的で主体的な態度に対しても影響を受けていたようです。

ロンドン研修では歴史的な建造物や世界的な観光スポッ

トを見てまわりました。ナショナルギャラリー、大英博物館、ロンドンアイ、ウエ

ストミンスター寺院、ピカデリーサーカス等生徒たちは五

感でロンドンを感じることで盛りだくさんの研修日程を

とおして大変多くのことを得ました。2期生は、3期生は

もちろんまわりのみなさんにこの研修で得たことをぜひ

PR（お返しをする）する

気で満ちます！



UCL薩摩藩士記念碑の前で

剛明直
気高く
優しく
健やかに